

林野火災警報などの運用を開始

4/1
から

近年の大規模な林野火災を教訓に、「林野火災注意報・警報」の運用を開始します。

☎消防局予防課(☎546-3476、☎249-1160)

屋外での火の使用は 発令状況を確認して

4月から、林野火災が発生しやすい気象状況となった際に、「林野火災注意報・警報」を発令します。

発令時は、林野火災の原因とされる屋外での「たき火」や、森林法に基づき、造林などを目的に草木などを面的に焼却する「火入れ」などでの火の使用が制限されます。発令の状況は、防災行政無線や市ホームページ、市公式LINE(本紙6頁)などでお知らせします。屋外で火を使用する際は、必ず確認して下さい。

【対象区域】市内全域(中区・南区・西区・安佐南区・佐伯区の一部の地域は除く)

■林野火災注意報

林野火災の予防上注意を要する気象状況となった際に発令

たき火など、**屋外での火の使用は控えてください。火入れは禁止です**

■林野火災警報

林野火災の予防上危険な気象状況となった際に発令

たき火など、**屋外での火の使用は禁止です(罰則の適用も)**

詳しくは市ホームページで

市HP ページ番号 1047925



屋外での火の使用

どんな行為が制限されるの? (以下は一例です)



警報・注意報に関係なく、廃棄物の焼却に該当する行為は原則禁止されています(農業・林業など一部の例外あり)

こどもを感染症から守るために

今年度から、妊娠中に接種を受けるRSウイルス母子免疫ワクチンが定期接種(無料)になります。また、生後2カ月からは、こどもの予防接種が始まります。かかりつけの医療機関と相談しながら、計画的に受けましょう。
☎健康推進課(☎504-2882、☎504-2258)

RSウイルス母子免疫 ワクチン定期接種開始

4/1
から

RSウイルス感染症は、2歳になるまでに少なくとも一度は感染するといわれています。RSウイルス母子免疫ワクチンは、妊婦が接種を受けることで、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて赤ちゃんに届けられ、重症化しやすい生後間もない時期から、RSウイルスに対する予防効果を得られます。

●対象 接種を受ける日に、妊娠28週0日目～36週6日目の人

●接種券の入手方法 市内と安芸郡内の医療機関に「接種券付き予診票」を設置



※里帰り出産などで市・安芸郡外や県外の医療機関での接種を希望する場合は、事前に区保健センターで手続きを
☎区保健センター(地域支えあい課)

区	電話	ファクス
中	504-2528	504-2175
東	568-7729	568-7790
南	250-4108	254-4030
西	294-6235	294-6113
安佐南	831-4942	870-2255
安佐北	819-0586	819-0602
安芸	821-2809	821-2832
佐伯	943-9731	923-1611

詳しくは市ホームページで

市HP ページ番号 1047235



こどもの 定期接種

計画的に受けましょう

生後2カ月から小学校入学以降も続くこどもの予防接種。ワクチンごとに法律などで接種を受けるこ

とができる期間や接種間隔などが決められています。命にかかわるたくさんの感染症を予防接種で防ぐことができますので、計画的に接種を受けましょう。

市HP ページ番号 1022963



将来にわたって活力ある圏域を目指して

圏域全体の経済の活性化と、圏域内人口200万人超の維持を目指し、さまざまな分野で連携した取り組みを行う広島広域都市圏。4月からは、庄原市が新たに加わりました。

☎広域都市圏推進課(☎504-2017、☎504-2029)



広島広域都市圏



補助金の活用を



地域団体の交流を応援します

町内会などの地域団体が、広島広域都市圏や松山圏域内の市町に行き、団体間の交流やイベント出展などを行う際に、公共交通や貸し切りバスを利用する経費を補助します。地域の活性化や活動のヒントを交流しながら見つけませんか?

【対象】町内会、子ども会、商店街、農協、事業組合など、広島広域都市圏内に所在する地域活動団体や産業関連団体
※呉市に所在する団体は除く

補助金活用例

●ひろしまLMOの設立を検討中の市内の町内会・自治会が他地区のLMOの活動拠点を訪見し、意見交換。
貸し切りバスの借り上げ料が補助対象になりました。

●ウォーキングクラブのみんなで廿日市の宮島に行き、弥山登山。
JRとフェリーの運賃が補助対象になりました。

その他の活用例や申請方法など、詳しくは市ホームページで

市HP ページ番号 1048188



圏域全体を元気に

広島広域都市圏は、広島市を中心として広島県、山口県、島根県の3県にまたがる市町で構成されています。特色のある市町が力を合わせて、さまざまな分野で連携し、「誰もが住み続けたい、住んでみたい、そして帰ってきたい広島広域都市圏」を目指します。

拡大する連携の輪

4月から、広島広域都市圏に庄原市が加わり、34市町となりました。また、愛媛県松山市を中心とする松山圏域とも、産業や観光、地域振興などの分野で相互連携が進んでいます。

広島広域都市圏について詳しくは、市ホームページで。

市HP ページ番号 1006023



< 圏域が目指す将来像と具体的な取り組み例 >

ヒト・モノ・カネ・情報が巡る都市圏

●広島広域都市圏の地域共通ポイント制度(としポ)の運用



●SNSなどを活用した誘客促進、広域的観光ルートの創出

ひろしま公式観光サイト Dive! Hiroshima



どこに住んでも安心して暮らしやすい都市圏

●24時間365日体制で電話による救急医療相談を受け付ける「救急相談センター広島広域都市圏・備後圏域」(#7119)の運営

●各市町を結び広域交通網(公共交通・広域幹線道路)の充実、強化

住民の満足度が高い行政サービスを展開できる都市圏

●テレビ広報番組などによる圏域内情報の発信
●保育サービス(一時預かり、病児・病後児保育)の広域利用



圏域内のいろんなイベントで、自慢の特産品などをPRしているワン!

広島広域都市圏マスコットキャラクター「ひろしま都市犬はっしー」